

南瓜肥後早生の特性について

幾竹正実*・大田譲一*

IKUTAKE, M. & OTA, J. On the Characters of New Variety of Squash Higowase

緒言 熊本県農業試験場では日向 14 号と印喰との組合せによる一代雑種をつくつて、これを促成栽培並に抑制栽培による試作を行つた結果は良好な成績を得たので、肥後早生と命名し普及することにしたので、これが結果について報告する。

育成経過 熊本県では日向 14 号による早出し栽培が行われている。日向 14 は果実の肥大は早い温度や日長時間に関しては敏感で、育苗法をあやまつて高温で育苗すると雌花の節位が上るし、またトンネル栽培で換気をあやまると落花し易く、窒素過多や肥沃地の栽培では蔓出来になつて落花し易い。また早生とまでは言えないので、従来の栽培法では収穫の最盛期が梅雨にかかり品質の低下を来すことが甚しいので、従来の日向 14 号の栽培を早生の品種で温度や日長に鈍感な品種におきかえて、収穫期を引上げたいと思つて早生種の育成にかかつたのである。昭和 26 年より日向 14 号と日向 2 号とを主体に博多早生、印喰、岐阜魁等の黒皮種の中で早生品種を交配し、以来引き続き秋作及び春作を行つて一代雑種の検定を行つて来た。その結果、日向 14 号を母とし印喰を父とした組合を肥後早生と命名した。

肥後早生の特性 肥後早生の果型は日向 14 号と大体同様腰高で肩張り果梗のところは凹んで居る。顆面には 10 条内外の縦溝がやや深く走り、更に浅い小溝

が 10 条内外走つている。顆面に瘤があり平滑ではなく、色沢濃緑色である。肉質は粘力に富んで鮮黄色緻密で甘味強く美味である。果重は 4 月中下旬で 200 匁、5 月に入れば 250 匁内外となる。一番花の開花日は日向 14 号より早く、更に開花日より収穫迄の日数は肥後早生で 20 日～23 日、日向 14 号では 25 日～29 日である。8 月中旬播種の秋作の場合は、従来日向 14 号を使用していたが結果は面白くなかつたが、肥後早生は秋作の場合においてもよく結果して食味も佳良である。これは温度と日長に対して日向 14 号より鈍感で、雌花の着生が長日期の播種でも良いことを示している。

結言 熊本県における南瓜栽培は日向 14 号による 1 月下旬播種、3 月下旬定植、紙トンネル栽培による早熟栽培が主体であるが、収穫時期が梅雨にかかり栽培が安定しないきらいがある。

肥後早生は日向 14 号よりは開花日が早く、色つきも早い上に、温度に対しては鈍感で、塩化ビニールの幌かけ栽培により高温になつても雌花の着生をそこなわないので、12 月下旬播種、2 月下旬定植、9 尺巾の大型の塩化ビニールの幌かけ栽培で出荷時期を 4 月～5 月に引上げることが出来て、梅雨までには相当の収穫をあげることが出来る。また茎や葉の生育は日向 14 号よりは小振に出来るので、日向 14 号より多肥を要するが、多肥による蔓ボケの傾向が少ないので思い切つた肥培が出来て、この点も栽培が楽である。

*熊本県農業試験場